

農村環境整備へ出発進行 初年度は木場地区

総事業費十四億一千万円の巨費を投じて、本年度から実施される「農村総合整備モデル事業」が、初年度は、町道木場裏道線の道路改良四〇〇メートル、排水路の整備五〇二メートルを行います。

この事業は、大部分が国や県の補助あるいは地方債（借入金）でまかなわれることから、今年度は総事業費の二・五割、金額にして三千五百万円が配分となり、木場部落の一部の環境整備が実施となり、いよいよ本スタートがきられました。

ご存知のとおり、農村総合整備モデル事業は、都市部に比較して立ち遅れている、農村の環境整備をはかるもので、特に道路の改修舗装、家庭排水路の整備、農村環境改善センターの建設などを予定しており、毎年、継続的に事業を進めて行くものです。



改良される木場裏道線

農作業メモ

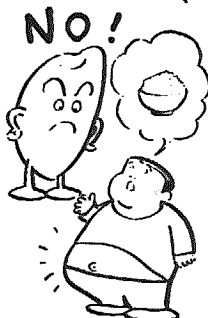
野菜づくり これからの野菜管理

○は種——エンドウは秋まきが普通ですが、早まきしすぎると耐雪性が低下するため、11月下旬～12月上旬ころが、は種期です。○排水——イチゴ・タマネギなど越冬作物は、畑の排水溝を整備し湿寒を防ぎましょう。

○イチゴの越冬株保護
イチゴは11月以降気温が低くなると葉がかたく、もろくなり、強風やアラレによっていたみます。そこで、枯葉・病葉を取り除き、ワリフ・寒冷紗を11月中旬までにベタ掛けし、4月上旬に外してやると生育が良くなり、収穫量が増加します。

○ダイコンの入り
生育後半の気温が高いと、入りが早まります。株の老化をさけ一番太い株の下葉を切って、入りを調べ、早めに収穫しましょう。

見直される米



米を食べると太る——と一部で言われているようですが、本当でしょうか。

太る原因を簡単に説明しますと、食べ物からとるカロリーの量が体を動かすために必要なカロリーを上回った場合に、余分なカロリーが体内で脂肪に変えられ、皮下にたくわえられて太っていくのです。

わたしたちが口にする食べ物には、コンニャクやカンテンなどのようにカロリーの少ないものは別にして、多かれ少なかれカロリーがあります。

ですから果物など、一般に美容食といわれているものでも、食べ過ぎれば太るのは当然で、米も例外ではなく、食べ過ぎれば同じように太る原因になります。

このような体の仕組みからもおわかりのように、太る原因は米にあるわけではありません。あくまでも肥満は、食べることと体を動かすことのアバランスにあるのです。では米のカロリーについて見ましょう。

茶わん一杯(約百グラム)のご飯で約百六十カロリーです。これは、食パン一枚のカロリーとほぼ同じです。しか

米は太る——は“濡れ衣”

し、食パンだけを何つもつけず、食べるといことはまずないといっているでしょう。バターやジャムをつけると、食パンにはさらにカロリーが加わるわけで、パンに比べて米は太るというのでは、米がかわいそうです。

いまアメリカでは、米を肥満防止や成人病予防の食事として注目しています。その理由は、アメリカ人の食生活の中心になっている肉など、脂肪分の多い高カロリーなものに比べて米は低カロリーで、しかも豊富な栄養素を含んでいるからです。

米の長所である「おいしさ」「がついつい食べ過ぎを誘い、太る原因にされてしまったの」食の秋、くれぐれも食べ過ぎには注意を——。

※これは日本広報協会からの資料を抜粋したものです。

日本損害保険協会から 消防車一台が寄贈

消防車一台が寄贈

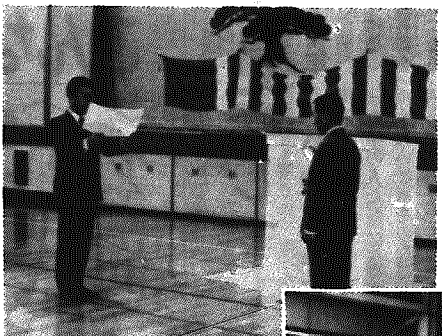
このほど日本損害保険協会では、地方自治体に対し、地域住民の生命と財産を守ってほしいと、県内に四台の消防車が配分・その一台が本町に寄贈されました。

これは、昭和二十七年、日本損害保険協会が「損保火災予防きよ出金」制度により、寄贈事業を行っているものです。

十月十三日、総合体育館で引き渡し式が行われ、さっそく消防署に配備されました。この消防ポンプ自動車は、一般火災はもちろん、

油火災用消火機材も積載でき、防火用途も広く、今までの防火威力を発揮できる新鋭消防ポンプ自動車です。

これから寒い季節をむかえ、火を使用する機会も多くあります。この消防車が出動することのないうよう、各家庭で火災予防に対する心がまえをもう一度養ってほしいものです。



目録の贈呈



新鋭車「火災保険号くろさき」

将棋大会に ふるって参加を

将棋大会を、次の要項で行いますので、愛好者は気軽に参加されるよう案内いたします。

記

- ・期 日 十一月九日(日)
- ・時 間 午前九時三十分から
- ・会 場 黒埼町中央公民館
- ・競技方法 A・B・C・小学生の部(4クラス)
- ・参加費 大人 五百円
小中学生 百円
- ・対 象 町居住者に限る
- ・主 催 黒埼町教育委員会
黒埼町労働協
黒埼町将棋愛好会

※中食は主催者で用意します。

歳時記 立冬

「おはようございます。十一月七日、今日は立冬。こよみの上では、今日からいよいよ冬にはいります……」などと、ラジオやテレビから、季節の変わり目を告げるアナウンサーの声が聞かれます。

立冬は昔から伝わる暦の上での季節の区分点で、現代の生活にはあまり関係はないようですが、最近では、テレビ、ラジオの朝のあいさつや、新聞の季節の話題などによく使われるので、ひところよりかえって親しまれてきています。

立冬は毎年十一月の七日か八日ごろで、この日から立秋の前日すなわち節分までが暦の上では冬です。ただ、実際には、立冬のころは木枯しが多少吹いても、その合間には風のないあたためたい小春日和が続いたりして、まだ冬の実感はあまりありません。このあと、暦の上では小雪、大雪、そして十二月下旬の冬至と続いて本格的な寒さに向かい、冬至にはカボチャを食べて中風の防止を願ったり、これから日照時間がふえるという意味のお祝いをする地方もあります。立冬については、昔中国で、天子が諸侯をひきつれて北の郊外へ冬を迎えにいったという話が残っています。

それにして立冬は、北日本ではもうストロップの季節。省エネルギーに留意するとともに、火災にはくれぐれも気を付けましょう。

お願いしまーす！ 赤い羽根募金運動 にご協力下さ〜い。

10月1日から「赤い羽根」共同募金運動が、全国いっせいに始まり、街頭には募金箱をもつ、少年少女や社会福祉団体の方が、道行く人に「お願いします」と呼びかける姿が見受けられます。

今年で34回目を迎えた、この運動は、みなさんよくご存知のとおり、めぐまれない人や障害者あるいは福祉施設の建設基金として、毎年大きな成果を上げ、昨年本町における募金総額は、3,236,343円にも昇りめぐまれない家庭に、明るい灯をともすことができました。

どうか今年も、この運動の主旨に賛同され、昨年よりもっと明るい灯をともすことのできるよう、みなさんのご協力をお願いします。

なお、この募金の一部、今年も2,500,000円が町に還元され、めぐまれない方や施設に配分されることになっております。